

# NPO法人 共に歩む市民の会

## 会報

2006年12月25日発行

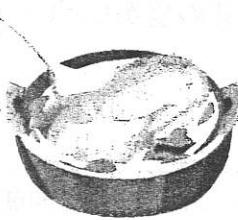
共に歩む市民の会広報委員会

### 通巻 第18号

☎ 241-0022

横浜市旭区鶴ヶ峰2-1-16

☎ 045-953-6727



### 夕食会

寺本 道代

夕食会が始まってどれくらい経つでしょうか。今は「ほっとぽつと」で毎週金曜日に行われている夕食会ですが、皆の思いがいっぱい詰まった歴史があります。

スタートは、24年前横浜で最初に心を病む人の作業所として設立された「むくどりの家」、その活動を支える集まりの中から、季節ごとの夕食会としてお花見、肝だめし、お月見、クリスマス会等が行われてきました。

数年が経ち夕食会の場所は、作業所運営の喫茶店に移りました。その頃には季節ごとの行事もありましたが一ヶ月に二回金曜日の夕食会を皆で食べるという形になりました。

その間も地域に深く根をはり、障害のあるなしにかかわらず、それが自分のできることでかかわってゆくことで、多くの人に受け継がれていきました。

「ほっとぽつと」の前身のたまり場（今の別館）で開かれているときは、毎週金曜日になりました。私は夕食会には喫茶店であった頃からの参加ですが、どの場所であった時も、食事を作る人、食べる人の区別なく暖かい手助けを受けてきました。

食材を運んでくれる人、包丁をといでくれる人、お皿を出して取り分けてくれる人、後片付けをしてくれる人、沢山の野菜を切ってくれる人、又以前は包丁を持てなかつた人が、「今は少しなら大丈夫」と手伝ってくれたり毎回うれしいことが続いています。

多くの人の出会いの場である夕食会を、どの人も自分の家の食卓に居る様なくつろぎを感じてもらえる様に、ほっとぽつとでホットできたらいいですね。



# 『第17回 旭区民まつり』

去る10月29日(日)、鶴ヶ峰地区で初開催の「旭ふれあい区民まつり」に参加しました。

「第9会場・ほっとぽっとコーナー」はメイン会場から少し離れていたのですが、雨が開始直前にあがったこともあり、この穴場スポット?!でのんびり過ごす来場者の姿がだいに多くなりました。



## 本館1階 <喫茶お休み処>

喫茶＝木楽舎メンバー・スタッフ  
お汁粉＝あけぼの会有志  
おでん＝木々の会有志  
焼き菓子の販売＝語らい電話ボラ有志  
手作り工芸品の販売＝手づくりの会  
展示と資料配付＝ほっとぽっとスタッフ

## 別館1階 <写真・絵画展> 11/1~4も開催

関久喜さん(絵画)、百井咲希さん(写真)、Lady's Room(絵手紙)、家族のたまり場(パネル画)  
<ミニコンサート> 11:00, 1:30の2回  
小笠原伸子・岡部由美子(横浜ロック室内合奏団)



担当してくださった上記団体の皆さんその他、ほっとぽっと利用者の有志やボランティアさんが前日の会場づくりやPR、当日の受付と片づけなどに大活躍でした。ふだんは各自に活動している人たちが自然に言葉を交わし知り合うきっかけになりました。

本館は「くつろぎの場」と情報提供。別館は当事者による創作・表現と文化を仲立ちにした交流。地域の方たちと接点を持つための‘かたち’が少し見えたように思います。私たちがお借りできている二つの場所の大きいなる魅力を「再発見」できたのも収穫です。

PR や準備でお世話になった地域自治会や区役所等の皆様もありがとうございました。

なお、旧バスターミナルに設けられた模擬店コーナーでは葦の会が恒例のたこ焼き他、横浜マックもりサイクル品等の出店で奮闘していました。来年の区民祭りの会場はどうなることでしょうか？

## 第17回旭区民まつりを終えて

FUMIO・ADACHI

H18・10・29(日)に今回初めて鶴ヶ峰の公園一帯をつかい、まつりを行った。今まで二俣川にある子供自然公園でまつりをしていたが鶴ヶ峰に新しく緑道公園ができ、新たな試みとしてまつりを始めてやった。

まつり当日の天気が心配で前日の日は30分しか眠れなかった。当日の朝は天気が悪かったが、午後には天気が良くなり沢山の人達がきてくれ、12時30分過ぎから客がどんどん集まり、たこ焼きが売れていった。

今回はNPO(特定非営利)法人・葦の会・葦の会作業所ウイングス・マインドが一緒にブースになった。ウイングスの方は人手が足りていた為、たこ焼きの方を手伝った。葦の会のたこ焼きは最初は300円で売っていたが、途中から100円引いて200円で売ったところ売れ行きも良くなり、かなりの数が売れた。

又、ほっとぽっと別館のミニコンサートの方も40人の人達が来てくれ、ほっとぽっとの方も数多くの人達が来てくれた。

来年も鶴ヶ峰一帯の公園を使うのであれば参加したい。



## 区民祭の思い出

布留川 謙司

町の中が人で混雑していました。区民祭に来ていた人達です。みんな気分が良かったのか、ニコニコしていました。いろんな出店で食べ物や菓子を買っていて楽しそうでした。

ほっとぽっとで店を出していたのが、お汁粉とおでんと喫茶で、それぞれいろんな人が顔を出していました。売上は上々でみんな売切れの状態で、店の奥で一息入れる人もいました。あけぼの会、木々の会、有志とゆいまーるの人達もみんな楽しそうでした。

自分もお汁粉を食べ、その後別館でコンサートに行き、食も気分も満足でき、大変楽しい一日を過ごしました。



## 区民祭に参加して

森 輝幸

今年の区民祭は、晴れ晴れとした中、葦の会のたこ焼きを焼いていました。昔は、小銭を持って地元の区民祭にお客として参加していたものです。その頃は、ただ楽しくて、裏方さんの苦労など知る由もありませんでした。

今回、別の視点で見渡すことができ、たこ焼きをプロ顔負けで焼き上げる人、重い障害を持ちながらも家族と一緒に作業所販売をしている人、たくさんのボランティアの活躍が目に映りました。

その中でも「ほっとぽっと」別館で、小学生に優しくパステル画を教えている光景に出会いました。このように、自然と「ほっとぽっと」と地域とのつながりが生まれることで、当事者・社会・家族・未来に明るい光がつながっていくのだろうと感じました。



## ～作品展に寄せていただいた感想文から～

- ・「心のなごむギャラリーであった。小さなものでも大きな安らぎを与えられました」(市民)
- ・「何気ない野に咲く花に心をとめ、素敵な写真に仕上げておられました。心がなごみました」(市民)
- ・「作者の方がお母様を思う気持ちが、絵からも文章からも伺い知ることができました。旬の話題をしながらも思いやりがいっぱい詰まっており、手紙を受け取ったお母様のほころんだ笑顔を想像しながら拝見させていただきました」(市民)
- ・「美しい花を見ると心がおちつきますね。きれいな花は世界に一つだけじゃないですね」(当事者)
- ・「花は心の色を優しくしてくれる。そして苦しさに負けずに生きる力を感じました」(家族)
- ・「『花を撮る』は花たちが私に何か語りかけてくれるようで、会話ができるほどやさしさを感じました。『花を描く』は誰かに向けておもいをこめてひと筆書くということの気持ちとぬもりが伝わり私まで温かくなりました」(ボランティア)
- ・「パステル画・絵手紙を見ていると心が穏やかになりました。パステル画という言葉を初めて聞き興味を持ちました。私も挑戦してみようと思います」(市民)
- ・「心が穏やかになる空間に素敵な作品でとても楽しい時間を持つ事ができました。パステル画などは購入したい程の出来だと思います」(当事者)
- ・「いろいろな作品があって、どれも個性豊かで素敵でした」(当事者)
- ・「現在町内会の役員をしてまして、パンフレットを見て伺いました。皆さん頑張っていますね」
- ・「私は看護学生で精神障害についても勉強しています。ですが、当事者さんと接する機会はなく、たまたまこの絵画、写真展を見つけて当事者さんの気持ちに触れてみようと思い来ました。これからも地域の人々に当事者さんの気持ちを伝えてください」(学生)
- ・「建物がすばらしいですね！ずっとみんなで利用できるといいですね」(市民)
- ・入院して2年になりますが、今回作品展にかかわってボランティアや色々の人たちとコミュニケーションができたことがとても良かったです。 関 久喜さん(作品展・花の絵の作者)

# ボランティアさん ～ 第2回～

『共に歩む市民の会』のボランティアの日頃の思いをつづるリレートーク。

前回の語らい電話のTさんからバトンが手渡されたのは…

語らい電話のKさんです。どうぞお楽しみに。

(傾聴ボランティア? 命の電話なら知っているけれど…。)

公報の募集を見た好奇心旺盛な私は、傾聴ボランティアの講習会に参加しました。それが、この語らい電話でした。その時の体験者の話にとても感動しました。又心に残る内容でした。これが、語らい電話のボランティアをしようと思ったきっかけです。又語らい電話は、当番制で月に1、2回ということでした。それも引き受けた理由のひとつです。

語らい電話には、顔も名前も知らない人が電話をかけてきます。楽しい話ばかりではありません。「嫌だよ～やめようかなあ～？」と思うこともあります。それでも何とか今まで続いている出来ているのは、いつまでも引き摺らない私の性格が幸いしているのかもしれません。これからも困った時は、先輩達のアドバイスを受けながら、私は、私なりに続けていければいいなあと思っています。  
語らい電話 Kさんより

## 会員紹介

今年で9年目を迎える『共に歩む市民の会』ですが、現在100名の方々がこの会の活動に賛同し、会員となってくださっています。  
そんな会員の皆様の素顔をちょっとずつご紹介していきたいと思います♪



第2回目はこちらの方です。

No.3: 工藤 美絵さん

No.4: 村木 雄一さん

Q: 所属は?

A: ウィングス(作業所)

Q: どんなお仕事されますか?

A: 「いいかげんは良い加減」をモットーに日々「いいかげん」を実現しています。  
その結果、メンバーから「だめだよ~」と言われるのも大切な仕事なんです。

ははは…

Q: (周りの人から)工藤さんてどんな人?

A: ウィングス(葦の会)に入るきっかけとなったのは、旅行中のMさんと出合った事がきっかけと聞いています。私も旅先で工藤さんのような人に出会いたいものです。引き出しのたくさんあるとても素敵なお方です。

Q: 所属は?

A: 旭福祉保健センター 福祉保健相談係

Q: どんなお仕事されますか?

A: 福祉保健の相談受付をしています。  
相談にきた方に満足して帰っていただけ るよう心がけています。

Q: (周りの人から)村木さんてどんな人?

A: 村木さんはアスリートです。戸塚から自転車で通勤したり、100kmマラソンにチャレンジしたり。みんなからの相談に真剣に悩んでいる心優しい人でもあります。

## くほっと　たつはな亭　企画はじまる！

ほっとぱっと別館のあのたたずまいを活かして何か楽しいことをしたい、地域の人たちとも交流できたらいいな…という皆の念願がかないました。横浜市の「空き家活用推進事業」との出会いが市民活力推進局及び芸術文化振興財団との連係・協力につながり、まずは毎月一度、音楽をはじめとした文化的な催しを実施できることになったのです。しんどい日常生活に楽しみと張りあいを見つけるチャンス！自分たちの手でつくるために…アイデアやご協力を待ちています。

### 10月・11月のクラシックコンサート参加者の感想文から

「最後にG線上のアリアを聴いた時は心が洗われて、思わず一粒、涙が出ました」  
(当事者)

「思いよらぬ落ち着いたやすらむ出会い・とてもよいときを味わえました」(家族)

「目の前でヴァイオリン・ピアノの演奏を聞くことができ、最高のひと時でした。ヴァイオリンが語りかけてくるようでした」(市民)

「通りがかりにチラシをいただいて知ったのですが、本当にラッキーでした。ステキでした」  
(市民)

「感情表現豊かで聴いていて非常に楽しかったです。会場もアットホームで魅力的な空間だったと思います」(市民)

「ふだんあまり聴かないで音楽を聴けてよかったです」(当事者)

「子どもが病気になってから久しく生演奏を聴いてなかったので、こんなに身近に聴けて光栄でした。昔、子どもたちを連れてコンサートに行ったことを思い出し、涙が出てしました」(家族)

「電気回路を通さずに文字通り“生”で全身で聴くことが出来た。感激でした」(市民)

「素晴らしい。身近に親しい仲間と、良い音楽とおいしいお菓子。至福の時です。できるだけ長続きしてほしいものです」(関係職員)

クラシックコンサートというと何か咳払いするのもはばかられるような雰囲気もあるのですが、「ほっと・たつはな亭」のようなアットホームなコンサートは、私にとっても楽しい時間となっています。

皆さん本当にリラックスして、楽しそうな表情で聴いていらしたのが印象的でした。小笠原さん、岡部さんの演奏や人柄、あのスペースからくる一体感によるのでしょうか。

菅原幸子さん（横浜市芸術文化振興財団）

### くほっと　たつはな亭　新春企画　～リコーダーはうたう～

・ 日程：2007年 1月 30日 (火) 14:00～(開場 15分前)

・ 出 演 “La Strada” リコーダーカルテット

吉沢 実・吉澤 明・河村理恵子・飯塚直子

\*入場料（コーヒーとケーキ付）

一般 1000円／障害者手帳をお持ちの方 500円／共に歩む市民の会会員 800円

### 編集後記

☆こがね色に柚子も実り、お鍋のおいしい季節を迎えました。皆様、「心の風邪」にもご注意下さい。

松元

◆今年も大掃除の季節になってきました。片付けをすると気分がいいんですね。片付けすることにより、気持ちも整理されるそうです。御一考を。森

★忘年会をハシゴしてると、クリスマスをすっ飛ばして、あっという間に大晦日…( - ) 高木

◇今日出来ることは今日のうちに、今年できることは今年中に…。夢の様な言葉です…(^o^) 松迫